

日本道德教育方法学会第18回研究発表大会 プログラム

期日：平成24年6月9日（土）、10日（日）

会場：國學院大學横浜たまプラーザキャンパス(1号館講堂、AV教室他)

大会事務局：〒225-0003 横浜市青葉区新石川 3-22-1

國學院大學人間開発学部初等教育学科 田沼茂紀研究室

後援：神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会

【第1日】6月9日（土）

11:00	12:30	13:00	13:45	14:40	15:00	17:30	18:00
理事会 (第5会議室)	受付	歓迎行事 (講堂)	自由課題研究発表 分科会Ⅰ（講堂） 分科会Ⅱ（AVⅠ） 分科会Ⅲ（407）	シンポジウム (講堂)		懇親会	

会員控室（408教室）

理事会 11時00分～12時30分（1号館第5会議室）

受付 12時30分～

学生による歓迎コンサート 13時00分～13時20分

歓迎挨拶および日程説明 13時20分～13時40分

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅰ（1号館講堂）

司会者 谷田 増幸（兵庫教育大学）

① 13時45分～14時40分

「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める中心発問——児童・生徒の実態と資料の構造を生かして——」

発表者 柴田 八重子（愛知教育大学・非常勤）

分科会Ⅱ（AVⅠ）

司会者 服部 敬一（大阪市立豊仁小学校）

① 13時45分～14時40分

「『子どもの学び』に着目した重点的指導パッケージによる道徳授業の試み」

発表者 鎌田 賢二（京都市立七条第三小学校）

分科会Ⅲ（407教室）

司会者 上地 完治（琉球大学）

① 13時45分～14時40分

「日本の私立小学校における道徳教育の現状」

発表者 東風 安生（早稲田大学系属早稲田実業学校初等部）

シンポジウム 15時00分～17時30分（1号館講堂）

大震災を経て、いま道德教育にできることを問う

平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災は、多くの尊い生命や人々の心豊かな日常を奪っただけでなく、福島第一原子力発電所炉心溶融事故によって、放射能汚染という深刻な事態を招いてしまった。震災直後から「絆」という合い言葉が象徴的に取り上げられた反面、放射能汚染という「見えない恐怖」は多くの人々の価値観を揺さぶり、寛容さや謙虚さ、さらには公正さ等の判断基準に混乱を生じさせ、わが国の社会における価値観の分断をもたらしかねない状況も露呈させている。

このような最中の平成23年6月、日本学術会議東日本大震災対策委員会は「復興の目標と7つの原則」を公にした。その復興目標でまず掲げられたのは、「何よりも、人々のいのちを大切にし、暮らしを再建し、未来への希望を育むものでなければならない」という強い意志表明であった。そして、同年9月に示された第二次提言では、二つ目の原則「日本国憲法の保障する生存権確立」の項で、被災地の子どもたちの一人ひとりが「個人として尊重され、差別なくそれぞれの幸福を追求できる社会を創る責務を大人は負っている」と復興教育への指針を明言した。

震災後1年余りが経過した現在、復興の槌音は日増しに力強さを増しているが、時間の経過とともに顕在化してきた道德的諸課題に対し、各学校における対応はどうなっているのだろうか。この問題は単に被災地で辛い体験をした子どもたちへの今後の道德教育の在り方を問うといった限定的な範疇では留まらない。既に都府県や市町村教育委員会レベルで、あるいは教育関係図書取り扱い出版社等から、様々な震災関連教材が刊行されている。しかし、その多くは震災直後の人々の感動を背景にした人間としての生き方を描いたものであり、現実的な道德的事実として突きつけられた諸課題への十分な処方箋とはなっていない。むしろ、それらの諸課題にかかわる内容の取り扱いについてはどう取り扱うべきか、未だ躊躇しているというのが実情ではないだろうか。そのような状況下で道德教育関係者は震災を契機に派生した諸課題とどう向き合い、どう日々の道德指導にあたっていけばよいのだろうか。本シンポジウムでは、批判的吟味も含めて震災以降の道德教育を再検証し、今後の指導の在り方やその課題解決方策を検討していきたいと考える。

シンポジスト	平野 美和（福島県郡山市立桜小学校）
	渡邊 真魚（福島県教育庁学校生活健康課）
	長島 利行（茨城県教育庁高校教育課）
	藤永 芳純（大阪教育大学・名誉教授）
コーディネーター	林 泰成（上越教育大学）、田沼 茂紀（國學院大學）

懇親会 18時00分～20時00分（若木21会館5階スカイレストラン「ヒルトップ」）

【第2日】6月10日（日）

8:30 9:00 10:55 11:15 12:10 13:15 15:30

受付	自由課題研究発表 分科会Ⅰ（講 堂） 分科会Ⅱ（AⅤⅠ） 分科会Ⅲ（407）	会員総会 （講 堂）	<昼食> 評議員会 （第5会議室）	課題研究 （講 堂）
----	---	---------------	-------------------------	---------------

会員控室（408教室）

受 付 8時30分～

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅳ（1号館講堂）

司会者 上 藺 恒太郎（長崎大学）

①9時00分～9時55分

「道徳教育とクリティカル・シンキング——工業高等専門学校での授業実践と意識調査に
もとづいて」

発表者 上村 崇（広島大学・非常勤）

②10時00分～10時55分

「平和教育に関する批判的考察」

発表者 古波蔵 香（琉球大学大学院・院生）

分科会Ⅴ（AⅤⅠ）

司会者 渡 邊 満（岡山大学）

①9時00分～9時55分

「自己探求活動を通じた道徳的価値の理解」

発表者 小川 哲哉（茨城大学）

②10時00分～10時55分

「明治前期における道徳教育と社会教育の関係に関する一考察」

発表者 毛内 嘉威（青森県総合学校教育センター）

分科会Ⅵ（407教室）

司会者 柴原 弘志（京都市教育委員会）

①9時00分～9時55分

「道徳の時間における効果的な発問について」

発表者 田邊 重任（高知大学）、大川純一（高知県本山町立吉野小学校）

②10時00分～10時55分

「道徳的価値の自覚を深める指導法の研究」

発表者 富岡 栄（群馬県高崎市立中尾中学校）

会員総会 11時15分～12時00分（1号館講堂）

評議員会 12時10分～13時00分（第5会議室）

新学習指導要領全面実施——道徳授業活性化の方向をさぐる——

今、道徳授業について、その形式化、効力感の弱さ、特質が揺らいでいる指導など、様々な課題が提起されている。そのような中、改訂学習指導要領は、小学校に続き中学校でも全面実施の時を迎えた。今こそ道徳授業の改善・充実を図るまたとないチャンスだといえる。そこで、本協議では、現在の道徳授業の問題点を再整理するとともに、豊かな道徳的学びのある授業へと扉を開き、その活性化を図るこれからの方向性について、基調提案とパネラーの主張を得て、全体で協議を深めたいと思う。

パネラー	木下 美紀（福岡県福津市立勝浦小学校）
	岡田 幸博（愛知県あま市立七宝北中学校）
	澤田 浩一（文部科学省・国立教育政策研究所）
コーディネーター	永田 繁雄（東京学芸大学）

参加者へのご案内

- | | | |
|--|--------|------------------------|
| 大会参加費 | 1,000円 | ・当日、受付にて徴収します。 |
| | | ・会員の方は「大会参加費」は無料です。 |
| 懇親会費 | 4,500円 | ・懇親会は会員、非会員を問わず参加できます。 |
| (希望者のみ) | | |
| ・会場周辺に昼食場所は多数あります。 | | |
| ・宿泊については、別紙の地図・交通アクセスをご参照いただき、各自で手配してくださいようお願いします。 | | |